The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	堂友會座談會
Author(s)	
Citation	懐徳. 1966, 37, p. 143-150
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90438
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

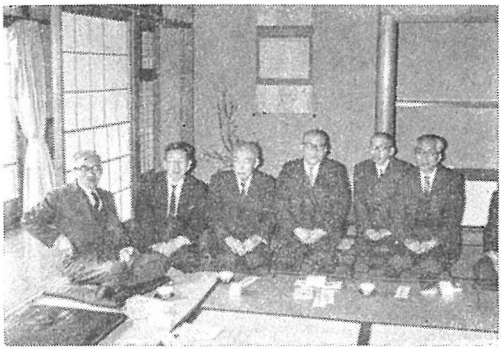
The University of Osaka

堂友會座談會

昭和四十一年四月三日　圓珠庵にて

出席者　井上、石井、岩渕、中田、井口、中島、長澤
宇野、伊藤、酒井、山口、桐本、川尻、田中

酒井　今日はお忙しい中をわざわざお集りいたゞきありがとうございます。早速ですが、懐徳堂の物故聽講生及物故堂友會員のため、しばらく默禱いたしたく存じます。――默禱――ありがとうございました。實は御案内いたしましたように今年は懐徳堂重建五十年になりますので、今年十月頃に祭典を行い、また記念祭を催されることになっております。



出席者

皆様古いお方、最初からの聽講の皆様にお集り願ってその當時の先生方のお話や、或は講義の思出などを承りたいと思って、實はこのような席を設けた次第でございまして、何分よろしくお願い申します。つきましてはまあ西村先生の思出から順次していたゞき度いと思います。それから松山先生、財津先生、教授先生の方を先にお願いしたいと思います。ついては石井さんいかゞですか、思出やうわさ話でも。

石井　大抵皆さんもご承知と思います。とにかく最前からも松山先生の清廉潔白とおっしゃいましたように、西村先生も勿論金ということに對しては、もう恬淡なものですワ。おうちの方は火の車が廻うていようがどうしようが、とにかく好きな本があったら、いくらでも買うて來られます。まあその度に、奥様は氣を使うておられました。これでは困りますネ。しかし似たもの夫婦ですナ。その奥様が矢張り私等が行っても何やかやと云って

ご馳走していたゞいたようなことで、懷德堂へ來られても、オイ石井マアマアそないにして鐸叩いてたら、その內に讀書の日が出來てくる。こういうような格好で、もう懷德堂が出來るなり、私は藤塚さんのようにお茶汲させて貰ったり、それでマア愉快に過させて貰いました。マア童顏な方で、何がなしにニコニコとして、大きな體で風呂敷チョットかゝえて……夏なんかお宅では褌一つですワ。誰れにもそう云うことはせられませんが。それを私も見習うて夏が來たら褌で過します。

酒井 ありがとうございます。次に井上さんどうぞ。

井上 西村先生のことで……忘れました。同心町で近くでしてん。デマア親類の墓の字を大分書いて貰ったんですがスッカリ燒きました。

酒井 先生の講義などお聞きになった思出などありませんか。

井上 それはしっかりした覺書もありましたのにスッカリ燒きました。本も隨分ありましたが、それも皆燒きました。もう何もありまへん。

酒井 中島さんいかゞですか。

中島 私アノ先生はあまり御警咳に接しませんでした。

酒井 井口さんいかゞです。

井口 私は殆んど、土曜講演ばっかしでございましたのですから、松枝町に居ましたので……松の出ております前のおうちですネ、家の低い割に大きな背の人がおられまして、あれが西村という先生で、朝日に出ている人ですときゝました次第で、アア立派な方やナと思いました。それで懷德堂で二三回も御講義を承ったようなことで。マアそれ位いの思出です……。

酒井 宇野さんいかゞです。

宇野 私は當時は小供でして、たゞ私共の一番よくわかったのは吉田先生でございました。先生に素讀を教えて貰いまして、私と弟が一緒に習いに行ってまして、週に二回あり、丁度先生が支那へ留學せられまして、今覺えておりますが、歸って來られて、ドヤ一つ支那語教えてやろかと云はれました。それが丁度私の中學の三年か四年生の時でございました。小供のことで、何も慾もありませんし、支那語覺えていたら、支那料理を食いに行ってもいゝぞなど云っておられました。ソレ位いの事ですネ。時々土曜講演に聽講させて頂きました。ホンマのまだ小供でしたので譯も判らずに……。

酒井 長澤さんいかが。

長澤 私も丁度あのはじめての時分のことは忘れてしまいました。あんまり記憶がありませんが、そうですね

……。松山先生のお供をいたしまして觀心寺とそれから金剛寺の方へお供したことがあったと思いますが、アノ時分に觀心寺から道々歩きますのに、松山先生のおそばで、お話をきゝもって歩きましたことでしたが、それ位いで、あまり珍らしいお話も出來兼ねます。

酒井　サッキ松山先生のお話が出たようですが、皆さん。松山先生について思出がありまっしゃろ、お願いいたします。或は財津先生などに關連して思出を一つ。

岩淵　私ネ、松山先生にネ。隨分寄せて貰いましたが、毎に商いに出るもんですさかいに、あとさらえると云うことが絶對出來なかったのですワ。それで先生にお斷りしたんですワ。あやまったんです。先生、私こないして毎晩寄せていたゞくんですけれどネ。殘念なことに朝の新聞と一緒で、見るだけであとはないんです。困ったことやなアと思っていますが、今はやむないことで、はづかしいことですと話しました。先生は、イヤ誰でも皆忙しいて、さらえるということはとても出來へんのや、あんただけやないから、そんなもん氣にせんと、矢張り聞かせて貰っているうちにものになるさかいにな、と云はれ、それで聞っ放しで、そやさかい今たづねられても何も覺えてないんです。

酒井　講義のことで先生にいいとこあったらお話し願います。井上さんいかゞですか。松山先生。

井上　私の方の近くで、篠崎小竹の門人で、西村先生の宅から三軒ほど北の宅へ、私も素讀を習いに行きました。見臺をこうして、昔のことですから座って……足が痛うて痛うて今度立った時には、こけてしまう位でした。キッチリした先生でした。その息子さんはお醫者さんをしています。篠崎小竹の門人の先生は仲々學者でしたナア。中學へ入った十五六の時で、先生は七十以上でした。吉田先生も見えていました。西村先生は御酒がすきやったらしうますナ。

岩淵　それは聞いてます。奥様が話しをしておられました、よう飲まはると。

酒井　中島さんどうですか。

中島　面白い話と思うておりますけれど仲々思い出せませんが、松山先生は、先ほど究屈な先生だったとおっしゃっておりましたけれど、私、中學校に參っておりました頃で、學校で矢張り漢文を習っていました。松山先生は非常にムッツリでしたネ。嚴格ではございましたけれど、私なんか惡さてチョカチョカしますと、もっと落ついてと言はれました。學校のように叱られるということはございませんでしたけれど、只今思い起しまして……皆様のおっしゃいましたことなどと共にお偲び申上

げております。私は松山先生には一度お會いしましたがハッキリした記憶が殘っておりません。私は專ら吉田先生ばかりで先生はホントに嚴格なお方で今おあとはどうなさっておいでゞございますか。

酒井　弟様が西宮にいらっしゃいまして、子達はまだ東京においでゞございます。井上さん財津先生のことを一つ。

井上　あの人はネ達筆でした。野口さんと二人でたのんで書いて貰いました。しかしそれも燒きました。あの人も大悟徹底した方でした。病院へ見舞に行きました。アベノの市民病院へ入院せられ、あそこで亡くなられました。

酒井　長澤さん。井口さん。

井口　私はあの先生に定日講義の連續やなくて、一回なにかお話を承ったことがございます。あの方は左傳をズットやっておいでだった由です。

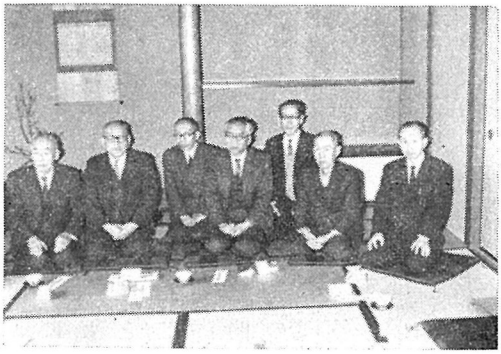
酒井　そうすると吉田先生が一番長いことですナ。井上さん。

井上　あの方書は見事でした。書を書いて貰い箱書までして頂いたのですが皆燒きました。

伊藤　吉田先生に書いて貰った司馬溫公の詩を今も大事にしております。仲々きれいな字をおかきになりました。

井上　西村先生の霧島山の詩という立派なものを、池田の岸上さんが持っておられましたが、河内の天見の大屋という宅に、西村先生が鐵砲打に行かれた時、心安くなられ、霧島山の詩の原稿二つを贈られたのを、懷德堂から皆見に行きました。

石井　西村先生の原稿を見せて貰いましたが、朱で一杯直してありました。こんなえらい學者でも文章をかくのにこんなに直すのかと感心しました。私それから文章は直し直しすることにしまして…。



出席者

中田　私は林（森太郎）先生の新古今の講義からききにまいりました。坂倉（篤太郎）先生はその後です。あの先生はいつもどう云う風な人が來ていられる

か、そしてその話が皆様に判ってくれているかどうかときいて、お話をすゝめられた。私よく講義せられる前にきゝに行ったもので、それから講義がすみました後で、自分の不審なところをきゝに行って、先生に非常に迷惑をかけたと思いますが、何等イヤな顔もせられず、御親切におしえて頂きました。

酒井　おくれましたが、狩野（直喜）先生、内藤（虎次郎）先生について皆様思出はございませんか。

石井　あんまりあの先生方はえらすぎてネ……。

中島　私あまり存じ上げませんけれど、内藤先生は懷德堂ばかりでなしに、他所での講演にはつとめて私は參りました。それから後、先生の御著書を拜見しました。石井さんが仰ったように、ほんとに高嶺の花と思います。私共の考え及ばぬ蘊蓄のお深い方と感心しております。

石井　カントの實践をきいたが、あれは藤井（健治郎）先生だった。

井口　私もあの時分からきかせて頂きました。カントの講義は可成り長い間承ったように思います。

酒井　天沼（俊一）先生のお話しいかゞですか。

井上　天沼先生は石燈籠の研究を承りました。それから京都の別莊をズット見て廻ったけれど、感心するような燈籠はないようで、最古のものは當麻寺金堂前の石燈籠、あれが日本では最も古いものだそうで……。寶珠の形についての觀賞など大變參考になりました。春日の柚ノ木燈籠がいいので、先生に案内していたゞいたこともあります。灯籠の話は非常に結構だった、今だにうれしく存じています。

中田　天沼先生の講義をきいておりましたが、私の近くに多治速比賣神社というのがありますが、そこの本殿を見ましたが、先生のお話をきいていますので、これは良いと思いました。一度天沼先生に見て貰いたいと思い、細部の寫眞をかりて先生に見せましたら、先生はもっと詳しく見なければ判らないが、いいように思うとおっしやられました。手挾、虹梁、木鼻、蟇股などを寫して貰って燒き增して、天沼先生にお見せいたしました。天沼先生はこれは良い、一度行ってみるとおっしやって、私がお伴して行きました。先生は方々から寫眞をとられ、尺をあてられ、これは良いと云はれ、それが日本建築細部變遷圖錄に出ております。成虫楼漫筆にはその記事が載っています。宮司さんが国寶に申請したいというので、府の社寺兵事課に行って、天沼先生に見て貰ったといったが、兵事課では、天沼先生など滅多に來られる方でない、若しかするとニセ物かも判らんと言ったほ

どでした。その後先生は度々來て下さって色々と手をつくし国寶になりました。懷德堂へ私が參り、天沼先生のお話をきゝそれがチャンスになって、このお宮の本殿が国寶になったような次第です。

中島　一寸變りますけど、井口さんが先ほど仰るように、懷德堂も松山先生の御講義を伺うのがつい究屈なものでございますので、土曜日の講演をズット伺いました。京都の總長になられた羽田享先生の敦煌のお話をズット連續して承りまして、それから大變面白くなりまして、斯ういう方面の勉强もしてみるようになりました。

伊藤　天沼先生の講義を承っていた時、先生が自分が亡くなったときには、斯ういうような墓にしたいなどと仰っておいでになり、豫て先生のお墓にお參りしたいと思っていましたが、先日堂友會の方と黑谷の先生のお墓にお詣りいたしました。狩野先生のお墓も同じく黑谷にありましたのでお參りいたしました。先程石井さんが云はれましたように、非常に御達筆でした。天沼先生は甘いものがお好きで、山本楢信さんがそのため先生が大阪へ見えた節には、色々と心を配って喜んでいたゞいたりして、山本さんと天沼先生とは大變親しくされていました。

中田　自分は講義をきかせて貰っているうち今に至るまで覺えていますのは、西村先生のお話の中に孟子の講義の時でしたが、僅かでもかまわぬ、善は善であるから、僞善でもつゞけてやったら、賣名でもいいから、善は善であり終には善になると云はれた話を今だに覺えている。阿倍野のお墓には時々お參りしてはこの事を思い出しています。

酒井　鈴木（虎雄）先生のお話を。

中島　鈴木先生のお話は承りましたが、私若い時分でもう一つ判りませんでした。興味もありませんでした。あとであんな偉い人であると知り、勿體ない、また申譯ないことをしたと思っています。

酒井　桐本さんどう。

桐本　私は昭和十年以後のことしか知りません。天沼先生の石燈籠のお話は結構でしたし、古建築史には最も興味を覺え、いまだにあの當時のお話が色々と役に立っています。先生には方々へ御案内いたゞきました。天沼先生はいつも朝鮮式の沓をはいておられるのをよく覺えています。私は土曜講演は出來るだけきかせていたゞきました。素讀の方は殆んど參りませんが、吉田先生の孝經を支那語で讀むよう習いました。張源祥先生に支那語を習いました時、支那劇の騷々しいレコードを、あの滋味な懷德堂の講堂できゝました。その時は周圍の雰圍氣

と合はない變な感じを今でも覺えています。中村（直勝）先生の古文書も大變好きでした。澤瀉（久孝）先生の御案内で伊勢の神宮文庫を見學に參りました。古書の尊いことをあの時はしみじみ知りました。

酒井　武内（義雄）先生の御講義をきいた方は。

井口　定日講義を一、二回支那へ行かれる前に承りました。論語の研究は讀ませていたゞきました。

石井　講義はきいたことはあります。先生は懷德堂から仙臺（東北大學）へ行かれ、仙臺をやめてから、宮内廳へ行かれ、また懷德堂へ來られました。私は懷德堂では、小倉のはかまをはいて、玄關の受付をやったりしましたが、樂しいでした。勝山通りから朝歩いてきました。

中田　私が懷德堂へ行って間もない頃、松山先生が懷德堂は民衆の大學だと云はれました。はじめ懷德堂のことは新聞で知った。一度行きたいと思い、その門前まで行ったがよう這入らなかった。そら年が行かんからで、ヨウはいらんと歸りました。歸りに萬葉集の略解を買うて歸りました。そこへ山本さんのおじいさん（梅川豐吉郎）が來られたので、そのことを告げたら、楢信さんが行ってるから紹介してあげると云はれ、その後山本楢信さんのお宅へ行き、新古今集の木版本を借りて懷德堂へ行きました。その梅川さんは私の祖父の中田六郎具誠に學んだのかと思います。うちは昔、塾のようなものをやっていました。その梅川さんに私の祖父が「糠を篩うと糠の匂いがする、藥を篩うと藥の匂いがする」それで何でもやっていたらよいワ、といった由で、私も懷德堂へ行ったとき、梅川さんは、何でもやっときと、祖父からきいたことを云ってきかせて下されました。梅川さんは當時は府會では仲々やった人でした。そんなことから私は山本さんと知合いになりました。山本さんのお母さんはその梅川という家から行っていられ、梅川家は私のうちとは昔から懇意で、私の祖父に習うた人は大分あるようで、あの邊の一寸物知りという人は祖父か曾祖父に習ったらしいです。

井上　福原というお醫者さんがありまっしやろ。あの人の家も、懷德堂の關係のものを澤山持ってまっしやろ。

中田　福原さんは懷德堂のことをよう知ってました。ジガンという先生、私の子供の折あの先生に診て貰ったことがあります。この間なくなられました。ひげをのばした福原のおじいさんは、懷德堂の門人や云うていました。色々懷德堂關係の掛物があります。餘談になりますが、履軒先生の書なんか掛けてナ。それが「尊」という字を書いてますネ。で、あの人酒好きですよってナ、これ何と讀むのかときゝましたら、「樽」と讀むと云いました。萬葉集ではよく文字をはぶきまして、冬ごもりと書くのを、冬木成と書いたりしまして、樽も尊と書いたのだそうで。大分懷德堂關係のものがあります。丁度井上さんの御親類になります。井上さんの姪の、お子さんが今殘っています。　醫者をしています。あれまあ一遍見せて貰うたらいいのですが。お母さんは亡くなられたがまだそのまゝにおいてあると思います。

井上　そうですまだおいています。澤山あります。

中田　よう知っていましたワ、お酒ばかり飲んでいると思ってましたが。

長澤　松山先生に高野山で一泊のお伴をしたその時、大門のあたりへ佛法僧をきゝに參りました。十二時ごろまで辛棒したが聞けなかった。坊に歸ってから東亞同文書院の學生に、中国の話をきいたことがありました。

中田　ギヤギヤと鳴いたのが佛法僧であるともあとできゝました。だからあの時きいたのは佛法僧であったかも知れません。その後、雜談にうつり詩經の六つかしかったことや、あの時分は嚴しかって、次の日に讀まされたりしたことなど、色々と思出話しをして過した。

酒井　どうも長々ありがとうございました。

（終）